

中国・北京春節(旧正月)2007年 縁日と子供、その一

春節の時期、北京市内の各所で廟会(縁日)が催される。その中で規模が大きいと言われている、地壇公園と大観園公園を見に行ったので、その模様を紹介する。いずれも家族連れで混雑しているが、主役は子供たちである。あちらこちらで歓声が聞こえてくる。

露天の店を見て歩くと、我々にも懐かしいものが沢山ある。まずはあめ細工だ。おそらく下町で子供たちの人気者だったのだろう。目を輝かしている子供にまじって、昔の子供もいる。



(写真 1.3.1a) 飴細工屋と見事な作品。



中には通り道に店を構えずに片隅に自転車を停めて売っている人もいる。この方が下町の路地裏を見ている様で親しめる。



(写真 1.3.2 左) 路地裏風の飴細工屋。姉弟なのだろう。飴屋の手先に見入っていた。

中にはあらかじめ作っておいた物を店開きしている飴屋もあるが人気は今一つない。やはり、その場で作って売っている方が美味しそうな気がする。

(写真 1.3.3 右) 道端で発泡スチロールに刺して売っていた飴人形。店開きしたばかりで人だかりはない。



子供たちが縁日での楽しみの一つはお菓子を買ってもらうことだろう。どこの国でも同じである。お菓子の店には人が集まり、親に買ってもらって、大事そうに袋を持っている子供の輝いた顔がある。



(写真 1.3.4) 駄菓子屋。粉砂糖をまぶした小麦の揚げ菓子や干し果実が並んでいた。



(写真 1.3.5 上、右) 手作り人形。

飴ではないが、その場で手作りしている人形も人気がある。小麦粉を練ったもので形作り、食紅で色を付けた小さな人形屋の前には子供たちが取り巻き、動こうとしない。聞くとここでは、春節中子供部屋に飾っておく様だ。



飴の話題をもう一つ。北京の風物誌ともいえる棗の飴である。棗の干したものを飴で覆ったものだが、冬の北京を旅行すると方々で売っている姿を見かける。棗は喉に良いといわれている。漢方薬にもなっているそうだ。

大陸気候で冬乾燥している北京っ子のこれはのど飴である。歩きながらしゃぶっている人をよく見かける。

私も買ってしゃぶってみた。中の干し棗が美味しい。ただ飴に包まれているので、一度にそんなに食べられない。歩くのに持つのも邪魔になる。べたついているので、バッグにも入れられない。

一串を何人かで分けるのが良い様だ。

(写真 1.3.6) 棗の飴。右の鍋に飴が入っている。